



北海道大学
附属図書館
調査研究室
R5-3

学修・研究における主体的成長のための情報蓄積である「eポートフォリオ」、およびそれをういた評価である「アセスメント」の手法⁽¹⁾⁽²⁾⁽³⁾を、大学組織における部署(セグメント)の諸活動に対して応用したモデルを示す。

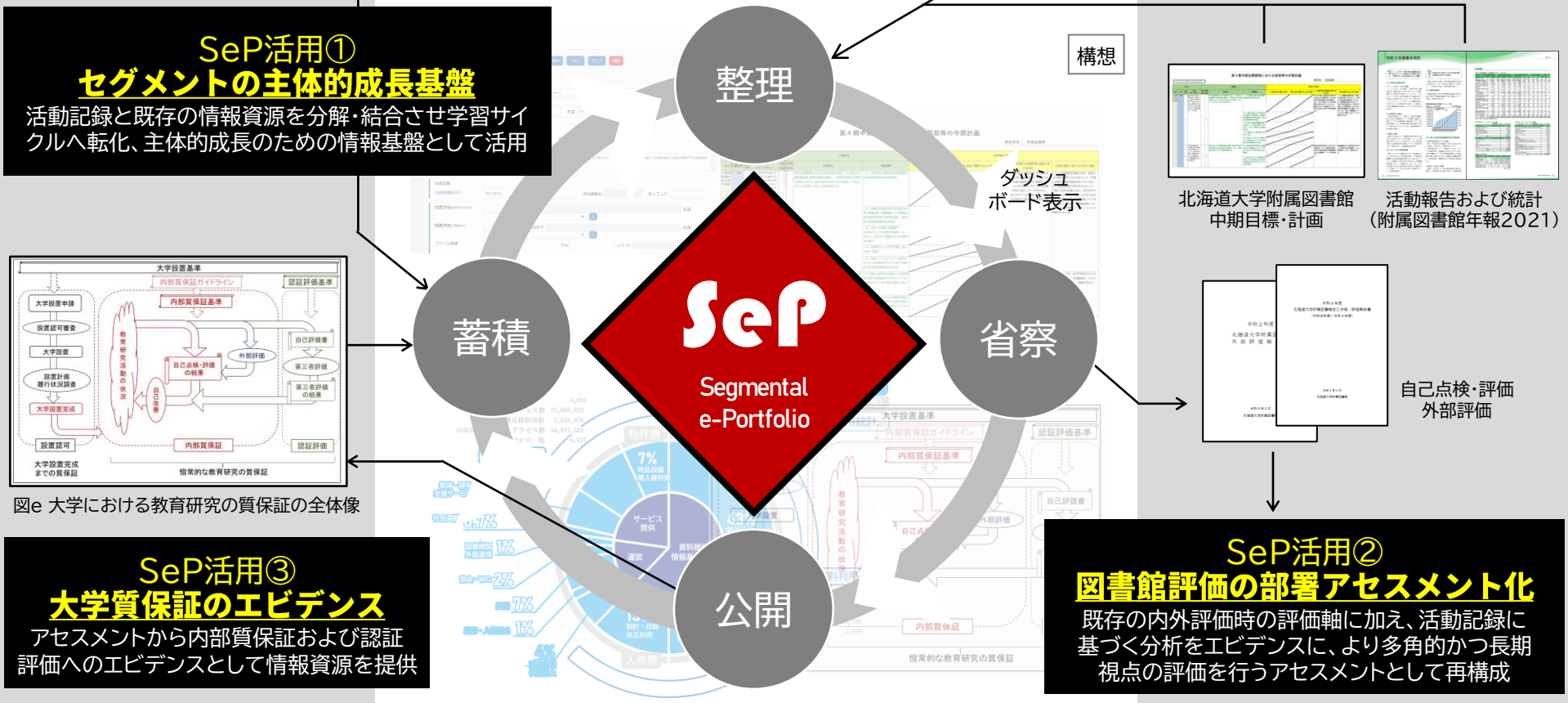
報告者らが2020年度に開発・運用し報告した北海道大学大学事業・活動情報共有システム(Strategy and Activity Sharing System of Hokkaido University: SSS-HU)⁽⁴⁾を通じて蓄積される業務活動記録と、既存の計画・統計・活動報告を結合させ「セグメンテーションeポートフォリオ(Segmental e-Portfolio: SeP)を構成する構想である。

SePはeポートフォリオ同様、組織の主体的成長を促すツールとして活用可能であるほか、図書館評価を部署アセスメントへと発展させ、大学機関内外とのコミュニケーションツールとして機能することが期待される⁽⁵⁾。

このSeP構想は近年大学に求められる「質保証」のフローにおけるエビデンス⁽⁶⁾蓄積手法としても応用可能と考えられる。すなわち、図書館が長年培った情報組織化の考え方および研究成果発信への応用手法が、大学経営における情報の取り扱いや質的評価の文脈に対して貢献できることを意味している。

セグメンテーションeポートフォリオと部署アセスメント構想

清重 周太郎, 佐藤 亜紀, 長嶋 岳生, 三上 絢子 (北海道大学附属図書館調査研究室, kiyoshige@lib.hokudai.ac.jp)



図f セグメンテーションeポートフォリオ構成図:業務活動記録と既存情報資源の結合

[図の出典] (a), (b), (c), (d) 著者作成。 (e) 大学質保証ポータルより引用。 (f) 三好(2022)を参考に著者作成。 [参考文献] (1)東京学芸大学森本研究室(2019), eポートフォリオを活用したアセスメントハンドブック。 (2)三好雅之(2022), 自己調整学習者に育てるeポートフォリオシステム構築からQuality of College Lifeの充実を支援するLMS-eポートフォリオビルディングシステムへ, 大学教育研究年報, 27, p.36-45。 (3)大増美樹[ほか](2021), 研究者の主体的な成長を支援するeポートフォリオシステム“ENISHI”の開発, 鳥根県立大学出雲キャンパス紀要, 18, p.48-54。 (4)清重周太郎[ほか](2019), 研究支援部署間の相互理解を目的とした研究事業の実施記録のメタデータ管理手法の検討, 大学ICT推進協議会2019年度年次大会。 (5)酒井由紀子, 市古みどり(2008), 「アセスメントの文化」の構築を目指して:第2回「図書館評価」会議参加報告, 大学図書館研究, 84, p.9-14。 (6)中央教育審議会大学分科会質保証システム部会(2022), 「新たな時代を見据えた質保証システムの改善・充実について」(審議まとめ)。 図書館総合展2023ポスター(online), 2023年10月24日, 本研究は北海道大学附属図書館職員プロジェクトR5-3による成果の一部です。また北海道大学フロンティア基金の支援を受けています。

